

矢立を持つて新吉は巡査の手を矢鱈に擲つた。

汽車が動き出せばそれで好いのだ。

巡査も人の好い男だつた。

『降りたまへ君、あなたの爲だから降りなさい』

ひつこく飛び付く様にして合圖の笛が鳴ると共に加勢に來た大男の巡査と二人掛かりでひつぱる。

インベネスの袖と胸の邊りがバリ／＼に裂けて、もぎとられて了つた。

新吉は矢立で亂打する。

遂々發車した。

巡査達は二人とも飛び乗つたやうだ。

新吉は戸を固く鎖して、擦り硝子の方へは矢立を押し込んでおいた。

外から飛び降りしない様に硝子戸にネヂを掛けたやうだつた。

板をガダガダ叩いた。